



先月より連載開始 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第2回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を予定しています。また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

図書館で読めます！

「真鶴町まちづくり条例30周年記念コーナー」はじめました！

美の基準デザインコードブックはもちろん、条例ができるまでの話、作成時の参考文献、「まちづくり発見団」成果報告書、条例施行後に掲載された雑誌、大学の研究論文など貴重な資料を並べました。ぜひご覧ください！



図書館入って左、受付カウンター前です。館内で自由に閲覧できます。

「美の基準」は強制されるものではなく、みんなで創っていくものです。従って、「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)

町民リレーコラム



美の基準って凄いです！

亀川 洋 (有限会社亀川石材店4代目)

真鶴町の皆様、美の基準ってどう思っていますか？「美の基準って真鶴に住んでいるから名前くらいは知っているけど、恩恵が無いし、よく分からないわ。町の良い所は生まれてからそもそもあるものだし、知ったところで面白くないわ」。なんて昔から住んでいる方の声が聞こえてきそうですが、私自身も47年住んでいながら美の基準の価値を知ったのはたった5年前のことでした。真鶴町は約30年前から、引き継がれてきた懐かしい港町の生活風景を保全していくため、真鶴の美しさがまとめられた「美の基準デザインコードブック」を作成し、美の町づくりを進めています。「美の基準」を作るにあたって、建築家、弁護士、都市計画家に協力を仰ぎました。その際に参考にしたのが、クリストファー・アレグザンダーが提唱した「パターン・ランゲージ(簡単に言うと美しい町づくりのコツ)」、チャールズ皇太子の「英国の未来像 建築に関する考察」、美の基準ができる前に行われた住民による地域資源の掘り起こしイベント「まちづくり発見団」の成果報告書です。これら美しい町にするためのコツを活用し、固有の美を拾い上げて完成したそうです。

「条例なんて家を建てる人の話でしょ。住んでいる人には

関係ないわ」。住んでいるだけだと恩恵も無いと思うところなのですが、この美の基準が無かったら開発が進み、高層マンションだらけになっていたらとても悲しい、残念な気持ちになっていたと思います。町の景観が保たれているのは美の基準が景観を守った、美しい真鶴の開発を止めた条例があったからなんです。それって凄くないですか！美の基準が素晴らしいと共感し、移住される方が沢山いて、新しいお洒落なお店が出来て楽しい町になってきたり、美の基準を愛で、真鶴に来て地域の人々と多様に関わる関係人口の方が増えているのが私はとても嬉しいです！「美の基準って価値のあるものなのね。全然知らなかったけどこれから大事にするわ！」という方がどんどん増えるといいなと思います。11月には、美の基準weekが開催され、様々なイベントが開催されます。是非この機会に興味を持っていただき足を運び、美の基準のことを知ってください。知らない人にも教えてあげてくださいね！ちなみに私が好きな美の基準のキーワードは「地の生む材料」です。これは小松石のことですが、小松石の原石販売をしている私にとって一番愛着のあるキーワードです(笑)